

# 高野山 開創千二百年 弘法大師御遺徳を偲び参拝す

八王子市 波多野 重雄

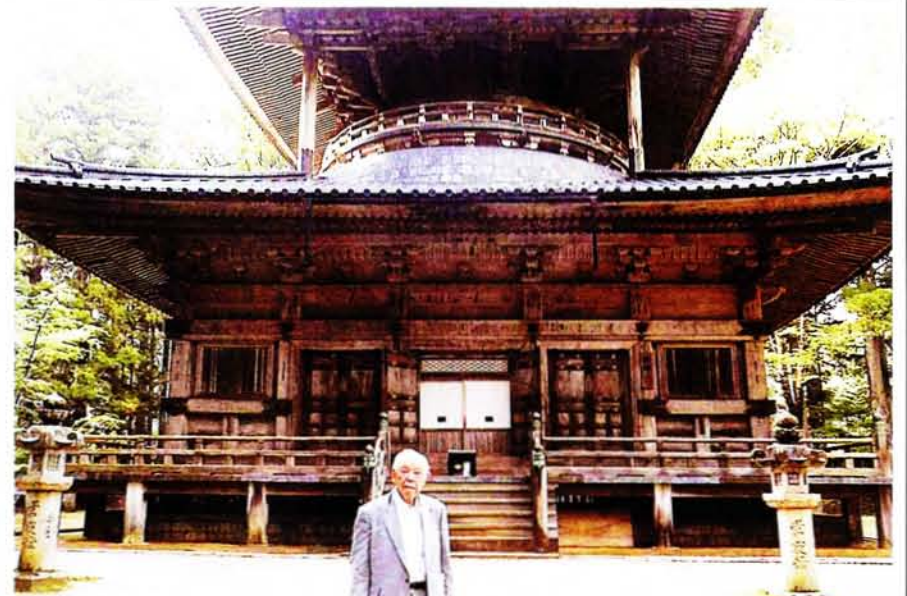
高野山が開創されてから千二百年を迎え、その記念大法会が今年四月二日から五月二十一日迄、盛大裡に開催された。参加者は約六十万人と云う。高野山、即ち、高野の山が人間社会と接点を持つのは、平安時代の弘法大師・空海による、金剛峯寺創建からである。高野山周辺地域は同寺の莊園として成長し、金剛峯寺と莊園との間には、年貢の收受関係以外に莊園から排出した僧侶によって金剛峯寺が運営された。戦国時代、金剛峯寺は天下統一を目指す羽柴秀吉にとつて障害となり、秀吉と対立した。木食上人の仲介により、金剛峯寺は秀吉に降伏し、焼き討ちを免れた。織田信長による比叡山焼き討ちに見る悲惨は免れ、秀吉と

昭和九年（一九三四）の弘法大師御遠忌大法会には、人力車が大活躍。又、玉川有料林道の完成により、橋本から自動車が高野山に入り、昭和四十年（一九六五）の御開創千五百年の大法会に高野山有料林道が完成。昭和五十九年（一九八四）御遠忌千五百年大法会に高野龍神スカイラインが完成。参拝者増大す。

高野山には、土着の人が昔は殆どいなかった。女人禁制の山であるから煮炊き、針仕事をする男の商売があった。女人禁制が解かれても戸外に出ないで一室に閉じこもり戸外に出るときは男装して歩いたという。「山内護衛規則」に妻女居住不可、婦女参詣の場合も親戚でも止宿禁止とある。

南海電鉄の登山電車が神谷―極楽橋間で昭和四年に開通。高野山ケーブルが翌五年六月から開通し、山上交通が一変した。極楽橋からのケーブルは五分、延長〇・八キロ。

最も急勾配は「千分の五六八」。高尾ケーブルは六分、距離は一キロ「千分の六〇一」に次ぐ、日本で第二位のものである。山内にある寺院百二十三ヶ寺、宿坊寺院は現在五十五ヶ寺。内訳は一心谷（三院）、五ノ室谷（四院）、本中院谷（四院）、谷上（四院）、南谷（七院）、西院谷（四院）、小田原谷（六院）、千手院谷（六院）、蓮華谷（七院）、往生院谷（十院）の中、密厳院は根来山に新義真言宗を開いた、興教大師覚鑿上人の住房であった。



壇上伽藍の一つである西塔を背景に記念撮影をする筆者

密厳上人とも称した。天承元年（一一三一）、上人は鳥羽上皇の臨幸を仰いで大伝法院を建立された。上人の一生には数々の奇譚、靈験の記録が夥しく、遺跡たる当院は、高野史の重要なものとして伝わっている。高尾山の常宿ともなっている。高野山は海拔約九百メートル、面積は百三十七〇八平方メートル（山が約七割）、人口は三千六百七十九人、僧侶は約千人、学校は高野山大学、中学校二校、小学校一校。町の予算は約四十一億円。平野嘉也町長（一期目）。

◎高野山に特筆すべき産業に高野紙がある。高野山麓を流れる不動谷川の水を用いて、平安時代頃より紙が漉かれていた。田の畔や家屋の裏に紙の原料の楮を植え、紙漉きを農閑期の仕事としていた。高野紙は江戸時代後期には、「生漉きにて虫いらず。水に入りて破けず、力は甚だ強し」といわれ、経文や諸文書など、



一の橋を渡り聖域へ至る

書写用に使われ、傘紙や障子紙などに用いられた。◎高野豆腐（凍り豆腐）は十九世紀前半成立の「紀伊続風土記」に「氷豆腐」として紹介されている。いつ誕生したのかわからず、寒涼の夜に暫時に凍らせたり、信宿（二泊の意味）で凍らせたものは色目や風味が淡浅であること。当時数十万個の凍り豆腐を売っていること「源兵衛豆腐」のものが極品と言われている。「源兵衛」の銘をもって都会に運送する偽物もあつたという。五彩の花形などで凍らせて公家、武家などに献上したところなどが記されており、「紀伊国名所図会」に豆腐製造場の絵も残っている。

高野山では奥之院の弘法大師御廟と壇上伽藍を二大聖地という。私は奥之院に向かひ、一の橋を渡ると雷鳴雷雨の中、樹齢七百年（植林）の杉木立の中をび

しよ濡れで参道を歩いた。二十万基を超える諸大名等の墓石、祈念碑、慰霊碑が設置され奥床しい。すぐ目についたのは右側に武田信玄・勝頼の供養塔、左側に上杉謙信・景勝の霊屋が対峙しており、中の橋を渡ると右側に与謝野品子の碑

「やははだの  
あつき血潮に  
ふれも見で  
さみしからずや  
道を説く君」  
そして、親鸞上人供養塔、左側に芭蕉句碑

「父母の  
しきりに戀し  
雉の声」

次で、法然上人供養塔など、整然と樹下に立ち並ぶ。大きな五輪の塔の宇宙の五台。「空・風・火・水・地」の構成が一目瞭然。徳川家霊台は徳川三代家光の建立等。

御廟橋を渡ると厳かな奥之院、弘法大師御廟に参詣した。火災に遭い再建したものである。

壇上伽藍は弘法大師が真言密教の根本道場を最初に整備した場所、数度の火災で焼失し、真新しい寺院となっていた。その他、金剛峯寺などに参詣した。高野山一山が仏教の町であり、千二百年前に弘法大師空海が理想に描いた真言宗誕生の町である。

文化庁の宗教統制調査によると、平成二十五年末日現在の高野山真言宗の信者は約三百八十四万人。平成十六年の約五百四十九万人をピークに減少傾向になっている。日本人の死生観も変化し、若者の宗教離れが進んでいる。また、少子高齢化

も深刻な影を落としている。日本人参拝客が減少する中、外国人観光客の増加が目立っている。平成十六年に「紀伊山地の霊場と参詣道」としてユネスコの世界遺産に登録されたことをきっかけに、二十九年にはミシュラン社のガイドブックで、「わざわざ訪れる価値のある場所」として、高尾山と一緒に三つ星を獲得。昨年末、世界的な旅行雑誌『ナショナルジオグラフィックトラベラー』選定の世界のベスト二十に日本から唯一選ばれた。従来、高野山の外国人宿泊客は年間約一万人であったが、昨年は約五万人と五倍になった。高野山の神秘的な景観や、高い精神性が欧米人を引きつけたのだらう。

私はこの記念すべき年に、弘法大師御遺徳を偲び、記録的暑さを告げる日の参拝を、千載一遇の縁と感じ、感謝する次第です。